

指 導 計 画

2022年12月3日(土)		場所	北とびあ 地下1F 多目的ルーム
【企画名】：地域創生型子育て支援コラボ企画「素材を使ってからだであそぼう！」			
【企画趣旨】 少子化と核家族化の進行によって、集まって遊ぶ機会が減り、これまで自然と身に付いていた運動能力や好奇心、人間関係を気づく力が身に付きにくくなり、親子の時間も十分に確保できなくなった今、子どもたちにとっての能力の発達を促し成長する機会を与えられるような講座を実施し、また親子の時間を見つめ直すきっかけづくりをしたい。(北とびあマネジメント共同事業体)			
主な活動 (題材)	カラフルポンポンを使って 親子でLet's Dance!	対象年齢	3～5歳児の親子 10組
親子の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により他の親子や地域でのふれあいの機会が減少する中で、子育て期の親子の心身の解放や、同じ年頃の子もたちとのふれあいを求めて参加している。 ・子どもたちは初めての場所に緊張しながら、どのような活動を行うのか楽しみにしている様子である。 	活動の ねらい	<p>【子育て支援や関わりの側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親子のふれあい」を意識しながら動けるよう、プログラムを構成し、参加した親子の心と身体がつながり楽しさを分かち合えるようにする。 ・多くの親子との活動を交え、親子関係だけでしか見えていなかった自分の子どもの姿を再発見し、子育てにおける視点のリフレッシュや多様化を図る。 <p>【運動の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的にあまり動かすことのない体の使い方を体験し、運動不足の解消やエネルギーの発散を通して心身の解放を図るようにする。
活動企画 における 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により地域や他の親子と触れ合う機会が減少している現状を踏まえ、活動企画では「ふれあい」をキーワードとして活動内容を検討する。 ・都心部における遊び場や人との触れ合いの減少を踏まえ、活動を通して親子が思い切り動き、他の親子や学生たちと楽しむ時間をもてるようにする。 ・いつもと違う環境の中で子どもと触れ合うことで、親子の関係だけでは見えない子どもの姿を保護者が発見し、子どもとの多様な関わり方を図る。 ・保育を学ぶ学生が、子育て支援型ワークショップを通して地域の親子とふれあうことにより、保育者の社会的な役割や子育て支援の本質や意義を理解し、保育者としての意識をもつ貴重な機会とする。 ・大学が地域の親子や公共施設との接点を持ち、子育て支援に関わる企画と運営を行うことにより、地域に貢献する大学の役割を考えるきっかけとする。 		
準備物	<ul style="list-style-type: none"> ・カラフルポンポン (赤・ピンク・オレンジ・黄・黄緑・緑・水色 7色×8個=合計56個) (一人2個) ・ジングルベルズ (手に持つ鈴) 3つ ・スタッフTシャツ：青3枚・赤3枚・オレンジ2枚 ・サンタの帽子 (8枚) ・おなまえシール (LGBTQの観点から全員同じ配色で) ・BGMに用いる音源 (子ども達に馴染み深いものを選曲、親子ダンスの音源は3ループで編集) ・クリスマスカード製作作用のカード (あらかじめツリーを貼り付けたもの) 12～3枚 (参加人数+予備) ・カード製作用素材 (シール・マスキングテープ・リボンほか、多様なセンスで豊富に準備) ・素材分散用の箱 (4つ) ・エアークリスマスツリー・オーナメント ・ポンポンテイクアウト用のビニール袋 (20程度) ・養生テープ ・講座指導演 ・肖像権許諾書アンケート ・講座フィードバックアンケート 		



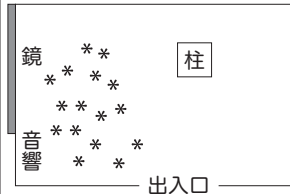
時間	環境構成(■)と活動内容(●)	子どもの様子・親子の活動	保育者の援助・配慮
10:00	<p>■子どもが興味をもてるようポンポンをあらかじめ活動エリアにランダムに設置しておき、入室した子どもたちがワクワクするような環境設定にしておく。</p>  <p>■BGMとして小さな音でクリスマスの歌を流して活動エリアを作っておく。</p>	<p>子どもは、部屋に置かれているカラフルなポンポンに興味を示し、自由に手に取って遊んでいる。</p> <p>子どもと保護者はお名前シールを作り、体の好きな場所に貼る。</p> <p>保護者や子どもは、色や書き方にこだわらず、自分の好きなように名前を記入する。</p>	<p>★参加している子どもや保護者に元気に明るく挨拶し、和やかで温かな雰囲気づくりを心がける。</p> <p>★場に慣れてきたところに、学生がポンポンでアーチを作り、子どもたちが楽しくトンネルをくぐって遊びながら、少しずつ心と体の緊張感が解けるようにする。</p> <p>★お名前シールの色や書き方は親子の自由に任せ、呼称の際には、保護者のLGBTQに配慮する。</p>
10:10 (導入)	<p>●クリスマス手遊び</p> 	<p>「トントンクリスマス」 「サンタになっちゃった！」 「サンタが道を…」</p> <p>フロアに広がって置いているカラフルなポンポンを親子で2つ選んで持つてくる。</p>	<p>★ジングルベルズを使いながら、クリスマスの雰囲気集合を促し、この会の指導者は「先生」ではなく親しみやすい呼び名で自己紹介を行う。</p> <p>★少しずつ難易度の高い手遊びに移行しながら集中力を高め、親子がアイコンタクト行って笑顔を交わすようなシーンを作っていく。</p>
10:20	<p>●自由表現「あわてんぼうのサンタクロース」</p>	<p>安全な持ち方を教わり、ポンポンを持って動くことに少しずつ慣れていく。</p>	<p>★「サンタが道を…」の最後にポンポンを探して取りにいくフレーズを創作し、リズムに合わせながら好きな色のポンポンを選んで持って来ることができるように促す。</p>
10:30 (展開)	<p>●親子でふれあいダンス「夢を叶えてドラえもん」</p> <p>※2回程度、繰り返し行くと2回目はしっかり動くことができる。</p>	<p>【休憩】水分補給・排泄</p> <p>振付の中で自然にふれあい、ハイタッチをすることで、お互いが自然に笑顔となり、保護者は子どもをよく見て、子どもは親を感じながら動く様子が見られる。</p> <p>1人で動くパートでは思い切り自信をもって、親子で動くパートでは親子が楽しく感じ合いながら動いている。</p>	<p>★「ポンポンを使った簡単な動きを3つ、ゆっくり丁寧に動き、お手本を見せる。(鈴の動き・ゆらゆらキラキラ・ドラえもんポーズ)</p> <p>★親子でふれあいながら動くパートを3つ、あそび感覚で練習しながらマスターできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイムマシーン ・トンネルくぐり ・手を繋いでお散歩 <p>★1曲目は指導者の動きを見ながら真似をして楽しみ、2曲目は間違えても良いので親子で合わせながら踊って楽しめるようにする。</p>

10:45
(まとめ)

●クールダウンとまとめ



●クリスマスカード製作 (自由参加型)



フロアの中心に、制作エリア (柔らかな敷物、エアークリスマスツリー、カラープロッキー、シール・マスキングテープ各種他) を素早く設置し、子ども的人数分+αのカードを子ども一人ひとりにプレゼントしていく。

11:10
(終了)

●カラフルポンポン、お持ち帰り!
(テイクアウトの手配)

親子でふれあいながら呼吸を整え、弾んだ心と身体を少しずつ落ち着かせていき、充実した親子の時間を感じていく。

カードに興味を示したり、好きな色のポンポンを集めたりする。

あらかじめクリスマスツリーだけが貼ってあるカードをもらい、たくさんのシール素材を用いて自分なりの飾り付けを楽しんで行う。

子どもが製作に熱中している間、保護者は参加者アンケートに記入を行い、学生と子育ての話や普段の子どもの様子などについて会話を交わし、コミュニケーションの充実を図っている。

仕上がったカードを一緒に参加した保護者にプレゼントしたり、得意げに学生に見せたりして、活動の余韻の時間と共に製作を楽しむ。

持ち帰り用のビニール袋に、兄弟・姉妹の分や保護者の分などを好きなだけ詰め込んでいる。

集めながら遊んでいる子どもも見られる。

★親子で最後にハグと深呼吸を行い、互いの体温を感じながらリラックスするように促す。

★ゆっくり穏やかな口調で活動を振り返り、充実した親子の時間や、空間で落ち着きを感じられるようにする。

★この後、自由参加型でクリスマスカードの製作タイムがあること、今回の活動で使ったカラフルポンポンを持ち帰って良いことを伝える。

★飾り付けに使用するシールやマスキングテープは、多種多様な素材で準備し、幾つかの箱に分けて用意しておき、子どもがそれぞれの場所で素材を自由に使えるよう工夫する。

★予備で準備していたカードは、子どもの様子を見て複数枚製作したい子に余すことなくプレゼントしていく。その際、参加していない兄弟や姉妹などについての情報も配慮する。



★今回の活動で使用したカラフルポンポンを袋に詰めて持ち帰ってもらい、余韻を楽しみながら、また新たな発想で素材を自宅でも楽しく使ってもらえるよう伝える。

参加者の声
(講座アンケートより抜粋)

- ・時間が足りないくらい楽しませていただきました。
- ・照れてプログラム通りにできないときもありましたが、ダンスや走り回ることを楽しんでいる様子が見られました。
- ・学生さんの対応充実の内容が素晴らしかった。お土産のカードまでありがとうございます！終始笑顔で接してくれ、プログラムも切れ目なく楽しいものを準備してくださり、充実した時間になりました。練習してきてくれたことがわかります。ありがとうございました。
- ・赤ちゃん連れで学生さんのサポートが嬉しかったです。
- ・大人も子どもも楽しく過ごせました。
- ・子どもの自宅とは違う、普段見られない様子や表情を見ることができました。



「ポンポンのテイクアウト！」

「いくつ、いいの？」と聞く子、「弟の分も！」と留守番する兄弟の分を持ち帰る子、たくさんビニール袋に詰め込んでいる子などの様子も見られました。



「クリスマスカードのデコレーションタイム」

子どもたちが熱心に最後まで作り上げる姿が見られ、それをお父さんやお母さんにプレゼントする姿は心温まる時間でした。



「みんなでダンス」

今回メインの活動となる「親子でポンポンダンス！」の創案では、幼児期の運動発達を理解した上で、繰り返しや両側性・片側性の動きを主に取り入れて組み立てていきました。